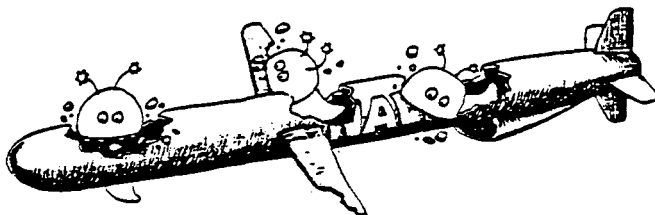


# 月刊反トマホーク通信

No. 19  
87.5.20  
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095

海の軍備撤廃をめざす国際ウィークエンド



PACIFIC CAMPAIGN TO DISARM THE SEAS

2257 Mākanani Drive • Honolulu, Hawai'i 96817 • (808) 845-6328

## WEEKEND TO DISARM THE SEAS

NEW ZEALAND: Auckland JAPAN: Yokosuka,  
Kamiseya, Fukaya, Zushi, Kure, Yosami  
AUSTRARIA: Perth MAURITIUS: Vacoal UNITED  
STATES OF AMERICA: New York, Albany, NY, San  
Francisco, San Diego, Centerville CANADA:  
Victoria, Nanoose Bay DENMARK: Aarhus,  
Copenhagen ENGLAND: Herne Bay, Saltburn,  
Cleveland, Portsmouth IRELAND: Dublin,  
Galway ICELAND: Reykjavik ITALY: Leghorn  
Napolli-Ponticelli NORWAY: Tromso, Alesund  
Christiansand, Bergen SCOTLLAN: Dundee,  
Glengarry, Inverness-Shire, Greenock to  
Dunoon on Clydside

5/29~31

(案内は3ページに!)

呉 依佐美 横須賀 上瀬谷

トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員 (月間会費)

団体 1日 2000円  
個人 1日 1000円

●参加会員 (月間会費)

団体 1日 1000円  
個人 1日 500円

●通信会員

年間  
2000円

あなたも仲間!

## フィジー政変と 非核太平洋



5月14日の夕刊は南太平洋の小さな島国、フィジーで起こった政変を報道した。ラバカ中佐が指揮する軍部グループが首都スバの政府・議会を襲い、ババンドラ首相をはじめ全閣僚を拘束、「新政権の発足」を宣言したのである。

ちょうど一ヵ月前の4月12日の総選挙でイギリスからの独立以来はじめて政権についたババンドラ（労働党＝国民連合党）政権は外交政策として非同盟運動に加わると同時に、「核艦船の寄港を拒否する」ことを公約していた。ニュージールランド、バヌアツ、ソロモン諸島について四つ目の「非核政権」が南太平洋に出現したのである。

政変の背景にはババンドラ政権の支持基盤であるインド系住民と、前政権（同盟党）を支持するメラネシア＝ポリネシア系住民の対立があることはまちがいない。

しかし、「キウイ病」（ニュージールランドの非核政策の国際的波及力を核推進側の人々はこのようによんでいる）の蔓延の具体的あらわれであるババンドラ政権の登場の持つ衝撃を思えば、オーストラリアのワイズプロット教授が14日に語ったように「米国の影響力を全く否定するわけにはゆくまい」（15日付「朝日」）。

実際、昨年12月米国の核持ち込みを認める

内容の「自由連合協定」を巡るペラウ共和国の国民投票（結果は否決）においても、この8月に予定されているニュージールランド総選挙をめぐる米国のCIAはさまざまに介入を繰返している。現地の反核運動の人々は訴えているのである。

太平洋の小国の人々にとって、「核」を巡る選択は「自立」と「自主決定」と奥深いところで関わっている。そして、人々がみづから意思で新しい歩みを始める時、いやおうも無しに核大国間の「冷戦力学」の場になげこまれることになる。フィジーで今起こっている事態は、そのことを生々しく私たちに教えているのではない。

米国の先棒を担いで、援助金バラまきの「新太平洋構想」を打出している日本政府が、フィジー「新政権」にたいしてどのような姿勢で臨むのかを注意深く監視する必要がある（ニュージールランド、オーストラリア両政府はすでに新政権不承認を表明した）。

南の島々の人々への最大の支援はこの日本でも「キウイ病」を蔓延させることだ。たとえば、核艦船の入港を本当に止めてみせること。それは私たち自身の「自治」と「自主決定」に深く深くかかわることだ。

（編集部 田巻一彦 五月十八日記）



呉・依佐美・横須賀で国際ウィークエンド 人吉（熊本）では反VLF相談会。

### 〔首都圏〕

「核艦船の止め方」青空ティーチンとピースウォーキング

- 5月31日（日）午後1時半から
- 横須賀市臨海公園
- 主催 実行委員会（反トマ首都圏運動／カトリック正義平和と協議会／かながわ非核交流会／平和事務所／非核市民宣言運動ヨコスカ など10団体）

横須賀海軍基地をのぞむ会場でのティーチンと展示。テーマは「非核コード」と反核ボットライン＊核艦船差止め訴訟＊横須賀定例一万人デモ＊平和船団＊もうひとつのチェルノブイリ＊非核アジア太平洋。出店、ミニコンサート、ビデオ上映、平和船団体験航海あり。集会後、市内をデモ。

5月29日には、横浜市北西の上瀬谷通信基地をビース・ウォーキングが出発する。（主催は「上瀬谷基地はいらないウドの会」）深谷通信基地、池子弾薬庫跡地を巡る住民と交流。31日の集会場に到着する。なおこれには、日本山妙法寺主唱の平和行進が合流、3日間の行動を共にする。

### 〔愛知〕

「なくせ！おい出せ！依佐美基地 5・31集会」

- 5月31日 午後1時から
- 刈谷市勤労会館
- 主催 核も安保もいらない愛知反戦の会（〇五二・七六二・五一一八）

米国の対潜水艦向け超長波送信基地に対する抗議行動も今年で三回目になる。トマホーク阻止京都連絡会の仲間も合流する。

### 〔呉〕

集会・デモの形態をとらない意欲的な行動が行われる。核艦船入港拒否を呉市長に求めるハガキ運動を始めるにあたって座り込み情報。呉市中心街で。

- 5月30日（土）午後
- 呉市仲通り
- 主催 トマホークの配備を許すな 呉市民の会

### 〔人吉〕

「VLF（超長波）送信所建設に反対する人吉相談会」

- 5月23日（土） 24日（日）
- 熊本県人吉市相良荘
- 呼掛け 毛利淳二（いま、鹿児島で何ができるかを考える会）
- 石崎昭哲（福岡共同行動）佐々木竹一（佐世保軍閥研）ら七氏

海上自衛隊が宮崎県えびの市に建設しようとしている潜水艦ようVLF送信所は今年度予算に建設費も計上され（約47億円）近々着工されそうな情勢である。昨年には抜打ちでボーリング調査も行われた。

この相談会は反VLFキャンペーンを九州規模で展開するためのもの。スライド「あぶない！VLF送信所」も完成した。当日はスライド上映、状況説明のあとキャンペーンの具体化について話合われる。24日には現地調査も。会議のもようについては次号「反トマ通信」で。「VLF送信所に反対する九州住民ネットワーク（準）」〇九六・三四五・五九〇四 くまもと市民センター／松平薫 〇九六六・二四・四九〇一」

## イギリス

ヘーネ湾 海辺で風船を飛ばす。平和船団の小航海。(ヘーネ湾CND)

ソルトバーン(クリーブランド) 詳細は未定(ラングボー平和運動)

ボーツマス 湾内での平和船団航海と陸上でのピラマキ。(ボーツマスCND)

## アイルランド

ダブリン アイルランド非核化と核艦船入港による潜在的危険性を訴えて海上デモ。地方議会、港湾管理者および政府に申入れ行動。メッセージは「ダブリンに軍艦をいれるな!」(ボート・ウォッチ・ダブリン)

ギャルウェイ 身寄りのない人々への援助運動と共催でチャリティーコンサート。テーマは海軍の軍事支出を貧しい人々のために振向けろ。地方議会、港湾管理者への申入れも。(行動的非同盟軍備撤廃グループ)

## スコットランド

ダンディー 30日、長さ1マイルのティ・ブリッジで1500人の人間の鎖。その後ホールでフェスティバルとコンサート。29日にエゼル英空軍基地を出発したピースウォークが到着する。(ダンディーCND)

## デンマーク

アルハス 国際ウィークエンドを期して核艦船寄港に反対する2年間のキャンペーンがスタートする。世界中の海軍のブラック・リストをもとに展開する。平和船団も発足。(アルハス北大西洋ネットワーク)

コペンハーゲン 新たに発足した平和船団が航海。(コペンハーゲン北大西洋ネットワークグループ)

## ノルウェイ

トロムソ トロムソ港の非核のための海岸での集会。(核兵器にノー・トロムソ)

アレズンド 町の中心部での屋外集会。ディスカッションと風船行動。テーマ「核兵器は北海から出ていけ!」

## アイスランド

レイキャビク 討論集会(反基地キャンペーン)

クリスチャンサンド 港および周辺で風船飛ばし、タコ上げ、ボートセイリング、音楽、模擬店等。地元紙への意見広告掲載。(核兵器にノー)

ベルゲン コンサート、集会、非核カフェ(核兵器にノー)



ニューヨーク 30日、戦艦アイオワの母港化に反対して集会とデモ。海上デモ(ボートセイリング)も。(港の非核化のための連合)

アルバニー(ニューヨーク) ニューヨークの下町で、海軍が新しいロス級原潜に町の名前を付けようとしていることに抗議デモ。(16日)29日にはクノールズ原子力研究所へのピラマキ。同研究所はトライデント原潜乗組員の訓練が行われている。6月13日、ニューポート・ニュース海軍造船所でロス級原潜の建造に抗議デモ。(クノール・アクション・プロジェクト、非核アルバニー連合)

## 海の軍備撤廃をめざす国際ウィークエンド

1987. 5



## イタリア

レグホン 海軍大学、英、仏、スペイン大使館、イタリア政府、自治体、港湾管理者への申入れ(Chiese Evangelica Valdese)

## モーリシアス

ヴァコール 大学でインド洋の軍事化に抗議する集会。米海空軍の緊急展開基地化のためイギリス政府によってディエゴガルシアから退去させられた人々のための記念碑の除幕式。

## 日本

呉 依佐美 横須賀  
内容は前ページに

## カナダ

(太平洋および北大西洋沿岸)

ビクトリア 30日、シティー・ホールからエスキモルト海軍基地まで5kmのパレード。同基地は、核艦船の寄港地であり、カナダ太平洋艦隊の基地でもある。現地では歌や集会、持寄りの夕食会、討論など。(大ビクトリア軍備撤廃グループ)

ナヌース湾 29日、船による湾入口の封鎖。テーマはジョージア海峡での兵器テストを止めろ(ナヌース転換キャンペーン)

## オーストラリア

パース 地と核艦船寄港に関するテレビ討論と郊外での戸別訪問。テーマはインド洋の非軍事化(PND...核廃絶のための人々)



## ニュージーランド

オークランド 5月29日昼休みの街頭シアター(海の軍備撤廃を!太平洋運動 NZ)

## アメリカ合衆国

(太平洋および北大西洋岸)

サンフランシスコ湾 30日、トレジャー島沖で平和船団の演習航海。港の非核化、中米への軍事介入反対などがテーマ。(沿岸地域平和船団など)

## サンディエゴ(カリフォルニア)

31日、ドック前での抗議行動と海上デモ。テーマは「命のために海を蘇らせよう」(生存のための連合、サンディエゴ平和資料センター)

## セーターヴィル(カリフォルニア)

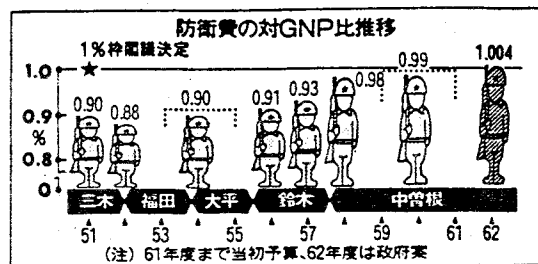
30日、海軍のSOSUS(対潜水艦水中監視網)のステーションへの抗議デモ(セーターヴィル・アクション・グループ)

# 「海洋戦略」

## と日本の軍拡

GNP 1% 枠突破の推進力

青木雅彦（京都）



一番笑ったのは誰か？

世界第二位の軍事大国？

「越えたと言っても〇・〇四％だけ。ほんのちよっぴり顔を出した程度」という一つに「誤差」な中曽根首相の姿勢に幻惑させられたか、売上税の「神風」がついに吹飛ばしてしまったか、ついに軍事費のGNP 1%枠突破問題は国会で本格的に論じられることはなかった。政府自ら儲けた「上限」を自ら取払うという慣例がこれで確立した訳で、「ちよっぴり」の突破で大きな政治的成果を得た防衛庁やペンタゴンの高笑い、反売上税闘争「完全勝利」の勝ちどきの後ろから聞こえてはこないだろうか？

七六年の三木内閣の「1%枠」決定は軍事費の「上限」設定の非常に巧妙な表現だった。実際には分母すなわち天井が年々高くなるのに、軍事費は何かしら一定であるかのような錯覚を与えることができた。国家予算でなく（対予算比は八七年六・五％）、巨大なGNPを分母にすることで「わずか1%」という印象を与える効果もあった。

防衛白書などに掲載されている各国国防費リストを見ると、八四年度日本は九位に留まっている。しかしこの「ミリタリーバランス」に拠ったリストは「ドル＝二四四円で換算さ

唐無茶な主張だ。自分の半分以上の価格の自衛艦を護るといふのは噴飯物。いずれにしても護るべきものは他にある。

### 「海洋戦略」への加担

北西太平洋では自衛隊と補完関係にある米軍の戦略を眺めればこの謎はすぐ解ける。よく知られているようにレーガン政権の戦略家たちは、これまでの「核による抑止」よりもむしろ「抑止が破れた時」、平たく言えば核使用を含む米ソの直接対決について多くを語ってきた。これは「海洋戦略」という漠とした名を付けられているが、戦略としては極めて具体的なものだ。

主戦場はソ連本土に隣接した海域。獲得目標は「米国に有利な条件で戦争を結ばせること」。太平洋での主役は五個の米空母機動部隊。天下無敵の存在だが、一抹の不安はソ連の爆撃機バックファイヤーから空母めがけて発射される長射程の（二百km）のミサイル。その不安を解消するのが中曽根首相の「日本列島不沈空母」構想だ。かれの言葉では「バックファイヤーに対する巨大な障壁を築くこと」と言うが、これをより具体的に展開しているのが防衛庁内に昨年新設された「防衛改革委」の「洋上防空構想」だ。

これによるとまず①OTH（超水平線）レーダー（五百億円）で爆撃機の動きをつかみ、②AWACS（空中管制機 三百億円）で更に正確に把握して、③空中給油機（二百億円）に支援されたF-15（九十億円）で阻止し、それでもミサイルが発射された場合はエイジス艦で撃ち落とすという念の入れよう。費用対効果を考えればこの構想が護るべきものとしているのは、一兆円以上の米空母であることは明らかだ。

この構想に出てくる新兵器はすべて「中期防」のショッピングリストに加えられている。これに加えてもう一つの「脅威」であるソ連原潜を攻撃するためP-3C対潜哨戒機（百億）を百機も調達するという。「たまに撃つ弾がないのが玉にキズ」の「貧乏」なはずの自衛隊がこんな豪華な買物をしようとはなんたる「一分不相応」か。また赤字の米国の軍事支出を肩代わりし、核戦争のリスクまで背負いこむとは何たる「自己犠牲」の精神か。

### ローン地獄の軍事費

国民の目を欺くために、我が政府は1%枠という数字のマジックの他に、もうひとつの手法を駆使してきた。ローンで兵器を買い

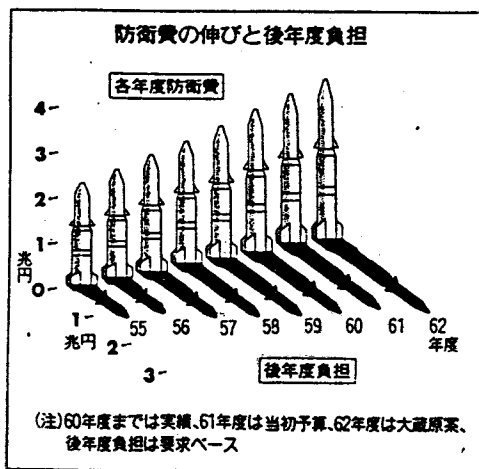
れている。これを最近のレートで計算すると、仏独を抜き五位。これに軍人恩給など広義の軍事費（NATOでは含まれる国が多い）を加えると、英国を軽く抜去って米ソに次いで世界第三位の軍事大国になってしまおう！

### エイジス艦の謎

ここ数年の自衛隊の装備を規定するのが、「中期防衛力整備計画」（八六、九〇年）という総額十八兆円のショッピングプランだが、政治的な配慮からすべての買物計画が公表されているわけではない。折にふれて意図的にリークされる情報を加味して、国民は要約そのショッピングリストの中身の概要を知るのである。

これらのリストの中でとりわけ目を引くのが「エイジス（盾）」と呼ばれる防空用の軍艦。二百五十目標を同時に捕捉・識別できるのも驚きだが、二千億円という価格がすごい。防衛庁は民間の船舶を護衛するためと言うが、積載ミサイルの射程はせいぜい百km。広大な海洋で半径百kmの円二つ（計画では二隻購入）がいかに頼りないものであるか考えれば、荒

支払いは後、という「後年度負担」の手法である。例えば八七年にはF-15を16機（千四百億円）発注するが計上された予算はわずか二億円。しかしこれもタネが割れてしまった。この「影の軍事費」は本体を庄する程に成長して、最早隠し様もなくなったのだ。（左図②）このローン地獄だけでも1%枠を破るのには十分だったろう。



### 国民に知らせる

今年だけで福沢諭吉換算で三百五十トン、（三兆五千億円）もの札束が防衛費と称して空しく捨てられる。これはどう使われるのか？

日本の軍隊は何をしようとしているのか？最近政府は「中期防」の金額の詳細を国会にすら提出することを拒否した。そしてこの上更に何を隠そうというのか、「防衛秘密法」まで作り、これについて詮索することさえ御法度にしようとする支配者たちの細心の「配慮」・統帥権が天皇にあり国民はその中身について口を出すことさえ禁じられた時代とどれだけ異なっているだろう。具体的に丁寧な暴露のできる反戦派の登場が今ほど待たれている時はないと思う。(八七年五月十一日記)

(付記) 紙数の都合で米「海洋戦略」を書けなかった。これについては以下の雑誌などを参考にして下さい。「反トマホク通信」(No 10)、「世界政治」(八六年十月上号)、「軍事民論」(四八号)、「世界」(八七年六月号)。

## TAKE BACK THE CAPE IN '88



Are you a Cape Crusader?

## 60年安保、核密約の現実

六〇年安保締結時、米軍は日本に核兵器を配備する権利を認め、日本は核兵器の保有を放棄する義務を負った。この条約は、日本が核兵器を保有する権利を放棄したことを意味する。しかし、この条約は、日本が核兵器を保有する権利を放棄したことを意味する。しかし、この条約は、日本が核兵器を保有する権利を放棄したことを意味する。

## 「通過」には幅広い定義 米は有利な運用を主張

「通過」には幅広い定義。米は有利な運用を主張。この条約は、日本が核兵器を保有する権利を放棄したことを意味する。しかし、この条約は、日本が核兵器を保有する権利を放棄したことを意味する。しかし、この条約は、日本が核兵器を保有する権利を放棄したことを意味する。

## 月刊反トマホーク通信 No 19

一九八七年五月二〇日発行  
トマホークの配備を許す全国運動  
(東京都渋谷区渋谷二一五九丸  
青山五〇二 トマホーク社)  
〇三(四九八)六〇九五  
編集 反トマホーク通信編集委員会  
定価 100円(通信会員年間2000円)